

JIS

閉鎖循環式酸素自己救命器

JIS M 7651-1996

(2005 確認)

平成 8 年 5 月 1 日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。

主 務 大 臣：通商産業大臣 制定：昭和 51. 3. 1 改正：平成 8. 5. 1

官 報 公 示：平成 8. 5. 1

原案作成協力者：社団法人 日本保安用品協会

審 議 部 会：日本工業標準調査会 資源エネルギー部会（部会長 福原 元一）

この規格についての意見又は質問は、工業技術院標準部材料規格課（〒100 東京都千代田区霞が関 1 丁目 3-1）へ連絡してください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第 15 条の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

閉鎖循環式酸素自己救命器

M 7651-1996

Closed-circuit oxygen self rescues

1. 適用範囲 この規格は、鉱山、ずい道、工場などにおいて、火災、爆発、その他の事故によって発生した有害ガス、煙、酸素欠乏などのために生命に危険のおそれがある箇所から脱出するときに用いる閉鎖循環式酸素自己救命器（以下、自己救命器という。）について規定する。

備考1. この規格の引用規格を、次に示す。

JIS C 1602 熱電対

JIS K 0804 検知管式ガス測定器(測長形)

JIS M 7611 一酸化炭素用自己救命器(COマスク)

JIS T 8001 呼吸用保護具用語

JIS T 8159 呼吸用保護具面体の漏れ率試験方法

2. この規格の中で{ }を付けて示してある単位及び数値は、従来単位によるものであって、参考である。

2. 用語の定義 この規格で用いる主な用語の定義は、JIS T 8001によるほか、次による。

- (1) 手動補給弁 P形自己救命器の構成部品で、着用者が操作することによって酸素を呼吸回路内に補給する弁。
- (2) デマンド弁 P形自己救命器の構成部品で、着用者の呼吸による呼吸回路内の圧力変化又は容積変化などで作動して酸素を呼吸回路内に補給する弁。肺力補給弁ともいう。
- (3) 定量補給形 P形自己救命器で、酸素の補給方式が高压酸素容器からの高压酸素を減圧弁、オリフィスなどを通して連続して補給する方式。
- (4) 定量補給手動補給併用形 P形自己救命器で、酸素の補給方式が定量補給のほかに手動補給弁を備えた方式。
- (5) 定量補給デマンド併用形 P形自己救命器で、酸素の補給方式が定量補給のほかにデマンド弁を備えた方式。
- (6) デマンド形 P形自己救命器で、酸素の補給方式がデマンド弁によって人体の酸素消費量に見合った酸素を間欠的に補給する方式。
- (7) 密封容器 外気の遮断を必要とする自己救命器本体を収納するケース。
- (8) 初期酸素補給装置 自己救命器の作動初期に、呼吸に必要な酸素を短時間内に供給する装置又はその機能をもつもの。
- (9) 初期補給ガス 初期酸素補給装置が作動したときに補給される酸素、空気又は酸素濃度が空気よりわずかに高い酸素富加空気。

3. 種類 自己救命器の種類は、酸素の補給方式によって次のとおりとする。

- (1) C形自己救命器 呼吸によって消費する酸素を、化学薬品の反応によって酸素を連続的に発生させ補給する方式のもの。
- (2) K形自己救命器 呼吸によって消費する酸素を、化学薬品に呼気を通して呼気中の水分と二酸化炭素によって酸素を発生させ補給する方式のもの。
- (3) P形自己救命器 呼吸によって消費する酸素を、圧縮酸素を減圧して補給する方式のもの。